

ACLエグゼクティブブリーフ

コスト回収とベンダー監査

回収プログラムの全コストはどれくらいですか？
それでも回収できない払い過ぎは？

毎年、組織の購入予算の
1パーセントに相当するコストが
超過支払で失われています。

**購買統制をどれほど徹底させても、超過支払は、最終的な損益の帳尻に
直接影響するビジネスリスクです。**

ベンダーへの超過支払はやむを得ない現実です。人間は間違いをするものです。そして、それらのエラーは、修正されるまで、業務処理のコンピュータで繰り返されます。組織が大きくなればなるほど、その購買プロセスは複雑となり、検出も収集もされない超過支払のため、著しい財務上の損失を生じるリスクが増大します。

大規模なビジネスでは、通常、取引先のサプライヤーに対する何十万件もの支払いが発生します。これらの支払いは、年間経費として何十億ドルにもなることがあります。特に、製造・小売業界では、多数のサプライヤーとの間で、多くの多様で複雑な購買の取り決めが存在する場合があります。あらゆる取引を組織のポリシーと手続きに沿うよう正しく処理しようとする、それは組織全体と多数の(多くの場合、互換性のない)コンピュータシステムや無数のファイルを巻き込む迷宮のように入り組んだ仕事になる可能性があります。購買データとそれらを処理する部署やシステム間の不一致の莫大さが、これらの困難をさらに悪化させます。

現在のベンダー監査/コスト回収ソリューションの全コスト

購買プロセスでは広範なエラーが発生する可能性があるため、エラーの調査も同じように広範に行う必要があります。それらのエラーには、ベンダーによる価格付けの間違い、重複支払い、省略された割引、怠られた値引きや割戻し、料金の計算間違い、正しくない税額などがあります。これらのエラーは、検出されないと、超過支払の原因となります。

従来のベンダー監査手順は時間がかかるので、平均的な組織にとっては非常に高くつきます。典型的な買掛担当部署でベンダー監査手順を適用すると、通常、超過支払の約50パーセントを回収できます。多くの場合、ベンダーへの正しくない支払いの調査と回収は、専門の会社にアウトソーシングされます。そのような専門会社では、回収額の比率に基づいてかなりの手数料を請求します。これらの対策をとっても、超過支払のほんの一部しか回収されません。これは、超過支払が特定されないため、異議が出たり、データの紛失や文書の不十分さのため、クレームが立証されないからです。また、よく見過ごされる重大なコストとして、回収された資金の時間上の価値があります。

回収専門会社の役割

専門のコスト回収会社が非常に高い利益を上げ続けていることは、何百万ドルもの潜在的収益が組織の統制の網の目を逃れていることの証しです。回収専門会社は、通常、次の2つのサービスを提供します。まず、組織のデータを分析して疑わしい取引を検出します。次に、フォローアップとして、超過支払が存在するかどうかを判別します。超過支払が存在する場合は、問題となっている資金を回収します。

コスト回収の費用効果を高めるには

したがって、課題は、より低いコストで、買掛部門による回収額を増やすことです。組織は、外部の回収業者に依頼する前に、内部の業務内容を拡張して超過支払を特定できます。このよりプロアクティブなアプローチを採用し、自社でより多くの可能な超過支払を検出することにより、組織は、専門の回収業者をとり組んだ回収作業に必要なより複雑で高度な分析に専念させることができます。そして、これにより、経費を最大限に活用できます。



専門のコスト回収会社が非常に高い利益を上げ続けていることは、何百万ドルもの潜在的収益が組織の統制の網の目を逃れていることの証しです。

フォーチュン500のトップクラスの小売企業が、ベンダーへの支払の分析にACLを使用することで、過去4年間に2百万ドルを超える回収金を取得しました。

この作業を社内内で達成するには、以下の機能を果たす包括的なベンダー監査プログラムと堅牢な分析機能を確実に活用できる方法が必要です。

- マルチプラットフォームのデータ出力をタイムリーに読み取り、比較し、論理的にリンクします。
- 何十万もの(場合によっては、何百万もの)レコードを含むファイルで、複雑なテストを素早く実行します。
- これらの作業を、専門の回収会社の料金よりはるかに安いコストで達成します。

明らかに、ここで必要なものは、内部スタッフが短い学習期間で習得できる、手間のかからない、費用効果の高いアプリケーションです。専門的技術を効果的に使用すると、エラーや見逃し、全くの不正などによる広範な超過支払をスタッフが特定しやすくなり、組織の時間とお金が節約されます。このような技術では、多数の異なるシステムからのデータを素早く読み取り、それらのデータに複雑なテストを実施できます。

さらに、それらの自動化されたテストで超過支払が検出されると、組織は、それらのエラーの発生を許すシステムの弱点を突き止めることができます。そして、そのような損失が再び生じないように、内部統制システムを改善する措置を取ることができます。これらの修正措置の導入による長期的な節約は、かなりの額になりえます。同様に、統制システムの改善により、支払プロセスがさらに確実なものとなり、ひいてはビジネスプロセス全体の改善が見込めます。継続的な監視システムを使用して超過支払のテストを行うと、システムの完全性を損なうことなく、作業を合理化できます。その結果、業務の信頼性と効率が向上します。

ACLで、不正行為のタイムリーな検知と防止を実現

ACLは、ビジネスインテリジェンスを補足および完成させるビジネスアシュアランスを提供します。組織は、ACLのソリューションによって、そのすべてのデータにアクセス、分析し、今まで要した所要時間の何分の1かで、データおよび業務処理の整合性に関する独立した検証を実施できます。世界中の何万もの企業が、ACLの強力な分析力と堅牢な機能によって、素早い投資の回収、リスクの低減、コンプライアンスの確保、損失の最小化、利益の増大を実現しながら、素早く確信を持って意思決定を行ってきました。ACLを使用する企業は、自己のデータを信頼し、かつてないほどの結果を得ることができます。

ACLの開発元であるACL Services Ltd.は、監査・統制業務、財務管理の分野におけるビジネスアシュアランス分析を提供する世界的なリーディングカンパニーです。1987年の創業以来、コンピュータを利用した監査テクノロジーにおけるマーケットリーダーとして、監査業務の専門家から常に高い評価を受けてきました。全世界に広がる顧客には、フォーチュン100企業中の95社、グローバル500企業中の2/3、4大会計コンサルティング、さらに各国政府、州政府、地方自治体などが含まれています。現在、150か国を超える国と地域、215,000以上のライセンスユーザーに利用されています。

※ACLおよびACLのロゴはACL Services Ltd.の商標または登録商標です。
 ※その他記載された会社名および製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。
 ※本カタログは2008年9月現在のもので、記載内容は予告なく変更される場合があります。

ACLの詳細は以下のWebサイトをご覧ください。 <http://www.acljapan.com/>



Smart Software, Smarter Deployment
株式会社エージーテック

本社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-21-1 昭栄神田橋ビル3F
 PHONE:03-3293-5300 (代表) FAX:03-3293-5270

カスタマセンター PHONE:03-3293-5283

名古屋オフィス 〒460-0003 名古屋市中区錦3-5-30 三見錦ビル5F

URL <http://www.agtech.co.jp/>

※弊社に関するご質問及び製品に関するご購入前のご質問: info@agtech.co.jp

※流通業者の方やOEMIに関するお問い合わせ: sales@agtech.co.jp

開 発 元

